

ポッドキャストを利用した農村地域からの情報発信の試み

Research about sending information from rural area using Podcast

○ 加藤 幸*・谷口 建*・佐藤 正彦**

○ Kato Koh*, Taniguchi Ken*, Sato Masahiko**

1. 研究の背景と目的 インターネットの普及により、農業・農村に関わる情報が簡単に得られるようになった。同時に HP などでも情報発信をしても、他の類似情報の中に埋もれてしまい十分な効果が得られない問題が生じている。例えば、「グリーン・ツーリズム（以下 GT と略）+ 青森県」というキーワードで検索した場合、約 1 万件もの情報が抽出される。利用者は、この中からさらに必要な情報を探すが求められ、検索上位の HP にアクセスが集中する傾向が生まれている。そのため、最近の情報発信においては、情報内容だけでなく発信する“方法”の面でも差別化が必要となっている。

本研究では、ポッドキャストを利用した農村地域からの情報発信の実験的な試みと地域住民との協議を通じて、農村地域からの情報発信が抱える課題の検討と解決を図った。

2. ポッドキャスト (Podcast) について Podcast とは、インターネット上にある音声・映像コンテンツをパソコンで視聴するだけでなく、iPod などの携帯端末機でも視聴できる仕組みのことで、「いつでも、どこでも視聴でき、見逃し・聞き逃しのないラジオ・テレビ」を示す。一般的な HP の更新と同じ感覚でテレビ・ラジオの番組に近いものを配信でき、都市と農村を結ぶ新たな情報発信の仕組みとなる可能性がある。

主な特徴として、RSS 機能の有効利用がある。Fig.1 のように、Podcast では、視聴者（都市側）が購読登録したコンテンツを RSS が常時チェックし、新たな内容を発見した場合、その内容を自動的にダウンロードする。これにより、視聴側は、興味のある HP を繰り返しチェックする手間を省ける。配信側（農村側）も、最新の情報を確実に視聴者（都市側）に伝達できる。その他、PC での閲覧だけでなく、コンテンツを携帯端末機に納めることで、時間や場所に関係なく繰り返し視聴できる。そのため、単なる情報発信方法としてのみならず、コンテンツを携帯端末機に収め貸し出すことで、博物館などに見られる音声案内サービスを農村で行うことを可能にし、農村地域における新たな情報提供サービスとして利用できる可能性を有している。

本研究では、青森県平川市尾上地区の GT 活動に関する情報発信への取組について検証し、Podcast による実験的な情報発信を行った。

3. 尾上地区の GT 活動と Podcast による情報発信

(1) 地域の概要 青森県南西部に位置する平川市尾上地区は、334 棟の農家蔵が現存するほか、大石武学流による農家庭園が地域のシンボルとなっている。現在、農家 35 軒で構成される NPO 法人尾上蔵保存利活用促進会を中心に、農家蔵・庭園を案内する農家蔵（庭園）ウォ

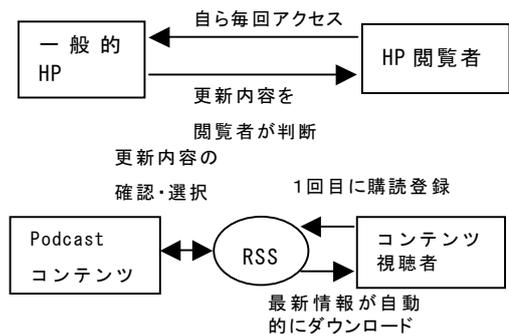


Fig.1 RSS 機能の仕組み



Photo 1 農家蔵(庭園)ツアー

*弘前大学農学生命科学部 Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University

**NPO 尾上蔵保存利活用促進会 NPO Association for preservation and use of 'KURA' in ONOE

キーワード：インターネット、グリーン・ツーリズム、農家蔵

ツチングツアー(Photo 1)を実施するなど、地域資源を活かした GT 事業を展開している。

(2) 聞き取り調査 尾上地区の GT 活動と情報発信の現状を把握するべく、上述の NPO の佐藤正彦事務局長に聞き取り調査を行った。この地域では、ホームページにより情報を配信しているほか、首都圏の旅行会社との提携によるツアー募集を行っている。しかし、最近では、類似の活動の増加により、“他の地域と差別化を図った情報発信”への要望がみられた。また、尾上地区を訪れた人々に“その後も継続的に情報を伝えたい”という強い要望があった。ツアー等で訪れた修学旅行生や観光客と、一過性の交流で終わらない継続した情報のやり取りを望んでおり、そのための手段を模索していた。そこで、Podcast の特徴を生かし、これらの課題解決に取り組むため農家蔵、農家庭園を紹介するコンテンツ作成と配信を行った。

(3) Podcast コンテンツの作成と発信

2006 年 11 月、NPO 法人尾上蔵保存利活用促進会が主催した「農家蔵（庭園）ウォッチング」を撮影、記録し、ポッドキャストコンテンツを作成した。コンテンツは、撮影したツアーの写真や動画に音声やテロップで説明を加え (Photo 2)、“地区の PR”、“ツアーの様子”、“蔵の紹介”、“庭園紹介”などに整理し公開した。iTunes Store など複数の Podcast 検索サイトを通じて紹介した結果、公開 3 ヶ月で約 200 件のダウンロードがあった。



Photo 2 配信コンテンツの画面

(4) 地域での報告会の実施と意見交換

制作、公開したコンテンツの報告と成果に関し、前述の NPO との意見交換を行った。また、2007 年 3 月、同地区の「四季の蔵もてなしロマン館」において、「おのえの KURA し」と題し農家蔵を題材とした卒業研究に取り組んだ学生が研究成果の発表を行い、約 50 名の地域住民が参加した (Photo3)。この中で、Podcast の持つ音声や映像を活かした直感に訴える情報発信や、RSS による継続した配信などが、既存の情報発信方法では満たし得ない問題を解決し、地域の個性の打ち出しに有効であると評価された。その一方で、コンテンツ作成・発信にかかる労力や技術面の負担など人材難の問題の指摘や、携帯端末のレンタルサービスについて、農家蔵・庭園が個人の敷地内にあるため、防犯上、不特定多数の人間が地域を歩き回ることに対して拒否反応が強いとの指摘を受けた。また、インターネットでの発信以外にコンテンツを DVD 化し関連機関に配布することの提案などがあった。



Photo 3 地域での研究報告会

4. 今後の課題と活動 今回実施した Podcast による情報発信への試みは、既存の GT 活動の直接的な PR 効果以上に、“新たな方法に取り組む地域”としてのイメージアップや、情報発信に取り組む地域住民が直接話し合う場の設置と意識向上など、間接的な効果が大きかった。今後は、これらの取組の具体化のため、①情報発信に関する広域的な連携による人材の確保と育成②携帯端末レンタルサービスなどの実験的な実施によるメリットの明示③継続的な地域住民との話し合いの場の設置、などの活動をすすめていく。